

# 経営比較分析表

徳島県 美馬市

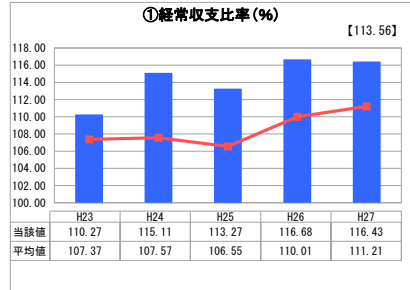
業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法適用	水道事業	末端給水事業	A6
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	44.13	76.90	3,456

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
30,860	367.14	84.06
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
23,564	57.88	407.12

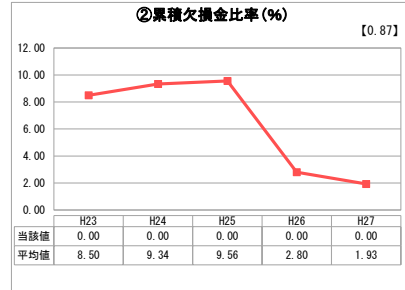
**グラフ凡例**

- 当該団体値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)
- 【】 平成27年度全国平均

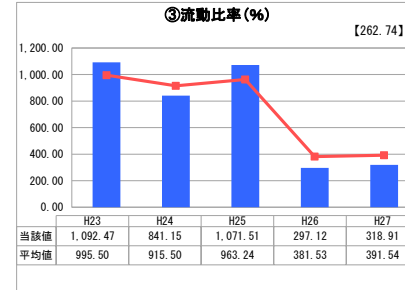
## 1. 経営の健全性・効率性



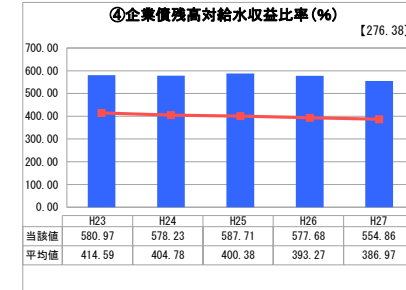
「経常損益」



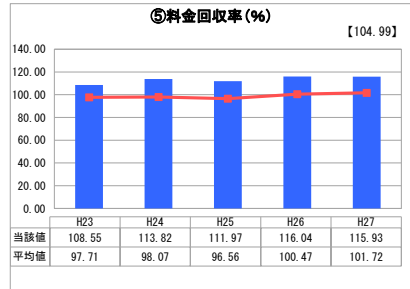
「累積欠損」



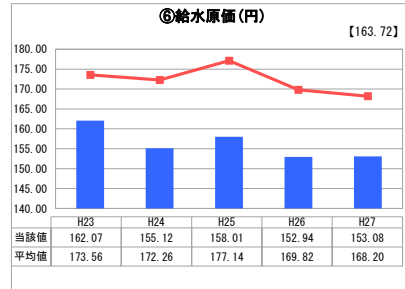
「支払能力」



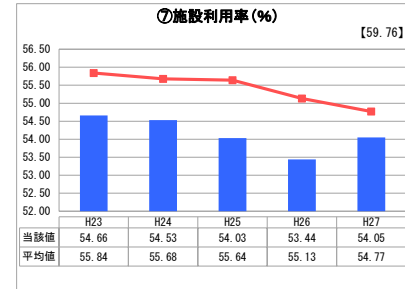
「債務残高」



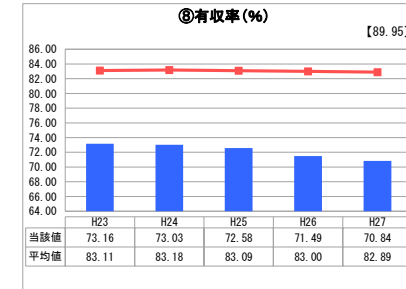
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

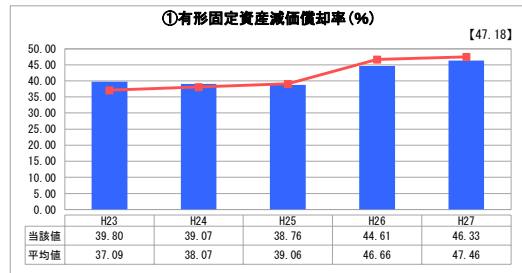


「施設の効率性」

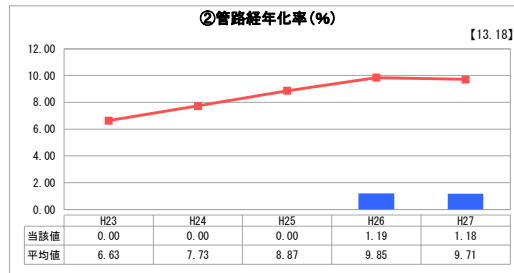


「供給した配水量の効率性」

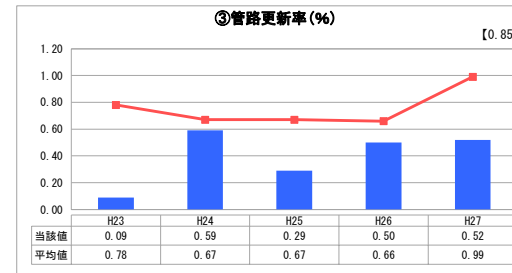
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

- ・ 経常収支（企業が平常の活動時に計上した利益）は黒字（100%以上）を持続し順調な経営となっている。
- ・ 流動比率は短期的には100%を大きく上回っており資金の流動性は健全である。過去に比率が大きく減少している理由は会計制度変更による影響である。
- ・ 自己資本構成比率は40%あり健全といえるが、企業債の割合が全国平均よりも高い。
- ・ 料金回収率とは水道収益に対する収益・費用の割合であり、水道収益の中で水道費用をまかなえている。
- ・ 施設利用率、有収率は全国平均と共に減少傾向にあるが、施設利用率は少子高齢化による給水人口の減少、有収率については管路の老朽化が要因と考えられ、老朽管更新等による漏水防止対策が必要である。

### 2. 老朽化の状況について

- ・ 固定資産の減価償却率は全国平均と同程度である。
- ・ 管路経年化率は耐用年数を経過した管路延長の割合であるが、概ね問題はない。
- ・ 管路更新率は当該年度に更新した管路延長の割合で全国平均より低いが、収益の中から計画的に耐震管への布設替等を行っていく。
- ・ 今後は施設の老朽化の現状を踏まえ災害対策も含めて耐震管への布設替等を行っていく必要がある。

### 全体総括

平成27年度時点の水道事業経営は健全性・効率性共に良好である。ただし、平成29年度より簡易水道が統合されることにより、経営状況は変化することが予想される。

今後は、経営戦略の策定等も踏まえながら健全経営に努め、効率的な設備投資を行っていく。設備投資については老朽化が進んでいるので、随時耐震化を進めていく必要がある。

※ 平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。